

企業名： センコーグループホールディングス (9069)

レポート名： 統合報告書 2022

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

トップメッセージから、「事業を通じて社会課題を解決しながら、人と社会に新しい価値を届ける」ということがこの会社が目指す将来の姿であると認識した。しかし、その具体的な姿については理解することができなかった。まず「社会課題の解決」についてだが、「社会課題」が何であるのか具体的に示されておらず、この会社が何を解決しにしているのかが分からなかった。次に「新しい価値の創造」について、これは統合報告書において何度も言及されているため重要な目標なのだと感じた。しかし「価値」という表現がやや抽象的であるため、具体的に「価値」をどのような形で人と社会に届けていくのかまでは理解できなかった。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

この会社は様々な事業を展開しているが、競争優位性は各事業の「強み」として示されているものであると理解した。以下が事業ごとの競争優位性である。

#### 1) 物流事業

創業以来 100 年にわたり蓄積してきた輸送ノウハウと、独自のシステムによる効率的かつ環境負荷の少ない輸送。

#### 2) 商事・貿易事業

生産工場から小売店舗まで一貫した物流オペレーションと独自の高度な IT システムによる最適なサプライチェーンマネジメントの実現。

#### 3) ビジネスサポート事業

物流、情報、商流が一体となった最適なサプライチェーンマネジメントの包括提案。

さらにこの会社は幅広い事業を行っているため様々な分野に関して豊富なノウハウを持っており、このことも競争優位性を生み出しているといえる。ある事業で培ったノウハウが他の事業において応用できるということだ。たとえば、商事・貿易事業の「一貫した物流オペレーション」という強みは、間違いなく物流事業で得たノウハウからきている。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

上で述べた競争優位性には、十分な持続性があると理解できた。この会社は「事業活動を通じて社会課題の解決を目指し、社会に貢献することが、企業が持続的に成長していくために重要」と認識し、サステナブル経営を推進しているからである。具体的には、「企業倫理」「コンプライアンス」「リスク管理」「環境推進」「社会貢献推進」の各委員会がサステナビ

リティに関する個々の活動を推進し、サステナブル推進会議が各委員会を統括するというマネジメント体制をとったり、重要課題（マテリアリティ）の分析とSDGsにもとづいたサステナブル方針を立てたりしている。また、前述したように経営方針がSDGsにもとづいて立てられていることや、統合報告書の各所に「持続」という単語が出てきていることから、この企業の持続性に対する意識は高いと見受けられる。この意識の高さも企業のさらなる成長に貢献すると思われる。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると思う。新中期経営計画には、「未来を担う次世代が成長し、活躍できる企業となる」というスローガン、そして働きがいと個人の成長の実現という重点目標が掲げられている。具体的な取り組みとして、まずセンコーユニバーシティの開学が挙げられる。これは人材教育の内容をさらに高度化・専門化するために行われているもので、講師に経営トップや経営陣が加わることで経営理念や思想などの浸透を図っている。また物流事業に関して、ドライバーの育成に力が入れている。具体的には、計画的かつ継続的なコーチング指導を実施したり、車両事故は経験年数3年未満のドライバーが起こすことが多いという事実から、経験年数3年目の全ドライバーへの添乗指導を実施したりしている。さらにこの会社は健康経営を推進しており、看護職の配置や新任管理職を対象とした「メンタルヘルスセミナー」の開催など、社員の健康を心身ともに増進するための取り組みが行われている。以上のようにこの会社では様々な人材育成の取り組みや支援が行われているため、自身の人的資本の価値向上を達成できると思う。

#### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

現在の経営についての説明が図表を用いて具体的に示されており、とても分かりやすかった。トップメッセージにあるように、「全てのステークホルダーの皆さまにご理解いただくこと」がしっかりと意識されているという印象を受けた。また、各事業活動を今の時代でしばしば要求されるSDGsと関係づけて説明しているという点もよかった。広く知られている枠組みを利用することによって、ステークホルダーに対し会社の取り組みとその成果を分かりやすく示そうとする工夫を感じた。

一方で、目標の設定に関してやや抽象的であるという点に改善余地があるといえる。たとえば、統合報告書のはじめの方に「サービス・商品の新潮流の創造」や「グローバル社会の実現に貢献」というミッション&ビジョンが示されているが、これらについての詳しい説明がなかったため、企業がこれらのミッション&ビジョンについて具体的にどのような状態を目指しているのか分からなかった。また、目標の一つとして「新しい価値の創造」という言葉が何度も出てきたが、「価値」というものが最終的にどのような形で現れるのかイメージがつきにくかった。会社が何を目指しているのかは株主が企業を評価する上で重要な指標となるため、できるかぎり具体的に示すべきである。